

幅広く読書に親しみ、読みたい本を自ら探す子どもを育てる学校図書館教育

～ ブックリストを活用し、本をつなぐ読書活動を通して ～

飯塚市立飯塚第一中学校
学校司書 林田 恵

こんな手立てによって…

ブックリストを活用した読書支援と
図書委員会による読書推進活動を行っ
た

こんな成果があった！

読書の幅を広げ、子どもたち自らが読
みたい本を探し、読書への興味関心を
高めることができた

1 考えた

本で得た知識や感情を実体験と結び付け、自分の力にすることができる子どもたちを育てたい。そのためには、子どもたちが自分たちに合った本、読みたい本を自ら探すことができ、読書の幅を広げることが必要だと考えた。その手立てとして、学年の読書目標に応じた本のブックリストを活用した読書支援を行い、さらに、図書委員会（5年生、6年生）による読書推進活動を行うことで、本と子ども、子ども同士をつなげ、読書への興味関心を高めることができ、読書の幅を広げ、読みたい本を自ら探す子どもが育つであろうと考えた。

2 やって見た

小学校2年生、3年生を対象に、颯田校読書指導計画の読書目標、学年の実態に合わせた本を選書し、ブックリストを作成した。読書の幅を広げ、読みたい本を自らが探せることを目的として、学校司書によるブックリストを活用した読書支援を行った。

更に読書への興味関心を高めることを目的として、図書委員による、おすすめの本のPOP（本の紹介カード）作成、展示、動画での本の紹介など、ブックリストを活用し、子ども同士の読書推進活動を行った。

3 成果があった！

ブックリストを活用した読書支援を通して、幅広い分野の本に興味を持たせることができ、2年生・3年生の読書目標に合った本に出合わせ、読書の幅を広げることができた。

必要な本をどう探せばよいか、子どもたちが本を自ら探すきっかけを作ることができた。

図書委員による読書推進活動を通して、子ども同士、本と子どもをつなげ、本に興味関心を持たせることができた。

<目次>

幅広く読書に親しみ、読みたい本を自ら探す子どもを育てる学校図書館教育

～ ブックリストを活用し、本をつなぐ読書活動を通して ～

1	主題設定の理由	3
	(1) 社会の要請から	3
	(2) 子どもの実態から	3
2	主題の意味	4
	(1) 主題の意味	4
	(2) 副主題の意味	4
3	研究の目標	5
4	研究の仮説	5
5	研究の構想	5
	(1) 検証方法	5
	(2) 研究構想図	6
6	研究の実際	6
	(1) 実践Ⅰ	6
	(2) 実践Ⅱ	13
7	全体考察	22
8	成果と課題	23
	(1) 成果	23
	(2) 課題	24
	<引用文献>	24
	<参考文献>	24

<本文>

幅広く読書に親しみ、読みたい本を自ら探す子どもを育てる学校図書館教育

～ ブックリストを活用し、本をつなぐ読書活動を通して ～

飯塚市立飯塚第一中学校
学校司書 林田 恵

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

学習指導要領の小学校、中学校それぞれの総則の中で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」とある。

自主的、自発的に読書活動を行うための手立てとしては、文部科学省が行っている、平成 30 年に出された第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(概要)の中で、「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」推進のための主な方策として「①発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成。②友人同士で行う活動等を通じ、読書への関心を高める。」があげられている。

また、平成 29 年の飯塚市子ども読書活動推進計画(改訂版)の中でも「読書好きの子どもを育てるには、発達段階に応じた適切な本との出会いが不可欠であり、優良な本との出会いは子供たちの読書意欲を湧かせます」とある。

(2) 子どもの実態から

小中一貫校である 穎田小学校では、貸し出し数が大幅に減少しているというような事はなく、読書自体が嫌いな子どもは少ないようである。しかし、読書傾向の偏りや、絵本から読み物への移行が難しい、どのような本を読んでよいのかわからないという子どもも多く、司書へおすすめの本を紹介して欲しいと言ってくる子どもは多い。また、子どもたちを取り巻く環境には様々なメディアがあり、年々読書への興味関心が低くなっている傾向もある。

穎田校での読書をみていると、小学校で読み物や幅広い分野の本に興味を持てなかった子どもは、中学生になっても読書への興味関心が低く、自ら継続して読書に親しみ、様々な分野へ読書の幅を広げていくという事が感じられず、読書の定着が難しいように感じる。

2年生は簡単な絵本を1人で読む事はできるようになっており、少し長い物語への興味も出てきている。子ども同士で本を薦め合い、自分たちで興味関心を広げているが、興味を持って読み通せる本ではないなど、個人差もあり自分が読める本を選ぶことが難しいところがある。

3年生は、読書習慣は定着しているが、同じ学習まんがを繰り返し読むなど、自分の好みから他へ興味が広げられないなどの傾向がある子どもが多い。また、少し長い物語への移行があまりできていない。

そこで、颯田小学校読書指導計画を元に、絵本から読み物へ移行する時期であり、読み物への興味を広げること目標とする小学校2年生、更に長編の読み物へと移行し、幅広い読書に親しむことを目標とする3年生を対象に研究を行うこととした。

実践するにあたって、読書への興味関心を知るためのアンケートを行った。

「本を読むことが好きですか?」「学校の図書館が好きですか?」という問いに関しては、2年生は全員が、3年生は2名を除いて好きだと答えている。「学校の図書館に好きな本がありますか?」という問いに関しては、3年生で1名だけいいえという答えがあった。

「学校の図書館で、読みたい本をさがすのは、むずかしいですか?」という問いに関しては2年生では56%、3年生では28%が難しいと答えている。

「先生や図書先生に、紹介してもらった本を読んだことがありますか?」という問いに関しては、どちらの学年も80%以上の子どもが読んだことがあると答えており、「本を紹介してもらいたいですか?」という問いに関しては2年生で90%、3年生で80%が紹介してもらいたいと答えている。

アンケート結果から、読書や学校図書館に興味関心があり、本を読むことが嫌いではないが、多くの本の中から、自分が読める本、読みたい本や自分に必要な本を探すということが難しいようである。

2 主題の意味

(1) 主題の意味

「幅広く読書に親しみ」とは、読書を楽しみ内容を理解し、多様な本があることを知ることで、本の分野を広げるなど、読書の幅を広げることである。

「読みたい本を自ら探す」とは、学校図書館を活用し、幅広い分野の本の中から自分に合った本、必要な本を探すことである。

【本研究で目指す子どもの姿】

- ・ 読書の幅を広げることができる子ども
- ・ 幅広い分野の中から、自分に合った本、必要な本を探すことができる子ども

(2) 副主題の意味

「ブックリスト」とは、ある基準に沿って選んだ本を薦めたり、紹介するために作られた目録である。ここでは、学校司書が、2年生、3年生の読書目標に応じた本の中から、季節や教科単元、学年の実態に合わせた本を選書したリストとする。

「ブックリストを活用し、本をつなぐ読書活動」とは、司書が作成したブックリストを活用し、図書の時間を利用しての読み聞かせや本の紹介など、本と子どもたちをつなぐ読書支援と、図書委員会(5年生・6年生)による、ブックリストを利用したおすすめの本のPOP(本の紹介カード)作成、動画による本の紹介など、本と子ども、子ども同士をつなぐ読書推進活動のことである。

このような取り組みを通して、子どもたちを幅広い分野の本や学年の読書目標に合う本、読んでみたいと思う本と出合わせることができ、読書への興味関心が高められ、子どもたちの読書活動が推進されると思われる。

3 研究の目標

2年生、3年生において、読書の幅を広げ、子どもたち自らが読みたい本を探し、読書への興味関心を高めるために、学校司書による、各学年の読書目標に応じたブックリストを活用した読書支援（読み聞かせ、本の紹介）と図書委員会による読書推進活動（おすすめの本の紹介など）を行うことの有効性を明らかにする。

4 研究の仮説

子どもたちへ向けて、下記のような2つの手立てを行うことで、読書への興味関心を高め、幅広く読書に親しみ、読みたい本を自ら探す子どもを育てることができるであろう。

- ・ 学校司書によるブックリストを活用した読書支援
- ・ 図書委員会による読書推進活動

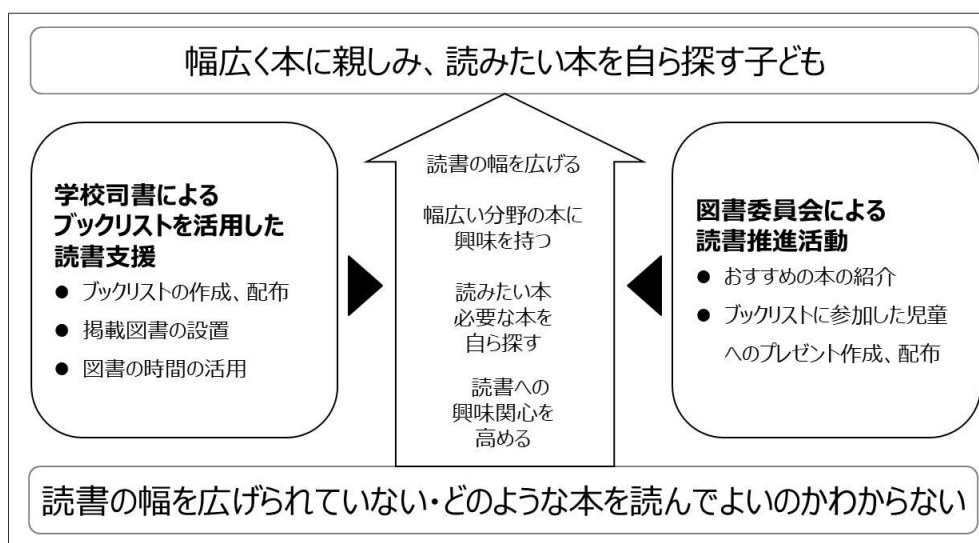
5 研究の構想

(1) 検証方法

子どもたちが幅広く読書に親しみ、読みたい本を自ら探すことができたかを以下の方法で検証する。

取り組み	検証内容	検証方法
学校司書によるブックリストを活用した読書支援	読書の幅を広げることができたか	ブックリストの取組への参加数 ブックリストの本からの感想 分類別貸し出し数
	幅広い分野の本に興味を持つことができたか	子どもの活動の様子 実践後アンケート
	読みたい本を自ら探すことができたか	子どもの活動の様子 実践後アンケート
図書委員会による読書推進活動	読書への興味関心を高めることができたか	ブックリストの取組への参加数 子どもの活動の様子

(2) 研究構想図



6 研究の実際

(1) 実践 I

6月の図書委員会の取り組み期間

実施期間：6月15日（火）～7月2日（金）14日間

貸し出し冊数：1回につき2冊

期間中利用可能な日数：図書の時間 3日・中休み・昼休みなどの利用 9日

※ 中休み・昼休みの利用については、新型コロナウイルス感染症対策のため学年を決めての利用になっている。

① 学校司書によるブックリストを活用した読書支援

ア. ブックリストの作成、配布

2年生	楽しんで読書しようとする態度を育てる。 内容を理解しながら、作品を読む事ができるようにする。 少し長い読み物でも、最後まで読み通すことができるようにする。
3年生	幅広く読書しようとする態度を育てる。 長編の読み物を、最後まで読み通すことができるようにする。

【資料1】 穎田校読書指導計画

穎田校読書指導計画【資料1】を元に、学校図書館協議会選定図書や青少年読書感想文全国コンクールの課題図書、西日本読書感想画コンクールの指定図書、国語の教科書に掲載されている本などから、2年生、3年生の読書目標、学年の実態に合わせて、楽しく読書ができ、本への興味を持たせることができるような本を、季節や教科単元に合わせて司書が30冊選書した。でき

るだけ多くの本を選ぶことができるよう、シリーズのある本を数冊入れるようにした。また、読書への興味関心を持たせるため、図書委員会からおすすめする本5冊、子どもたち自身が選んだ本5冊（子どもが興味を持って読んだ本を記入させる）を含め40冊とした。

ブックリストには、書名、著者名を載せ、面白さを記号（◎、○、△、×）で評価し記入できるようにし、ブックリストの裏には簡単な感想を書けるようにした【資料2】。

みんなも読んで!

「この本読んでね!」の中でおもしろかった本の感想を書いてください。みんなにも紹介します。

本のなまえ

この本 読んでね! 2年生

No.	ほんのだいめい	かいたひと	おもしろ
1	あめがふるふる	田島征三	
2	一日だけうさぎ	廣瀬浩	
3	おしゃべりなたまごゆき	寺村謙夫	
4	おれたちとちどりシリーズ	内田麟太郎	
5	かぼくん	神田倫子	
6	がっこうだっどときどきしてる	アダム・レックス	
7	かんけり	石川のえこ	
8	もってどこにあるのしょう?	こんのひとみ	
9	サイモンだっどねこである	カリア・ボーンスタウ	
10	としゃかんライオン	ミシェル・ヌードセン	
11	ながいららん あじかいららん	リス・ロー・スプリング	
12	なかにでもレオナルド	玉置永吉	
13	むしとりにいこうよ	はたごうしろう	
14	もぐらはすこい	アヤ井アキコ	
15	ロバのジョージとおひさま	マイケル・モーバゴ	
16	日本のむかしはなし		
17	のほらうたシリーズ	石井謙子	
18	ふしぎなたいこ	石井謙子	
19	おさるはおさる シリーズ	いとむろし	
20	くまの子ウーフ シリーズ	神田利子	
21	ミウの花まる農林み	きたりまごうき	

おもしろさを書いてね
すくおもしろい◎ おもしろい○ ぶつ△ おもしろくない×

No.	ほんのだいめい	かいたひと	おもしろ
22	魔法のろいんアム	神野あきこ	
23	ほかりさんのゆうひんはいたつ	はせがわさとみ	
24	山のちようじょうの木のてっぺん	藤江二平	
25	まほうのゆづひんぼすと	やまだともこ	
26	こうえんのシロ シリーズ	わたなべひろみ	
27	おぼたのジョージ シリーズ	ロバート・プライド	
28	おぼたのジョージのあそび シリーズ	アン・フォーサイス	
29	こぎんがががらうのおくさん	シド・グーテン	
30	ちびっこ大げんしゅ	シド・ホフ	

図書委員会おすすめの本

1	11ひきのねこシリーズ	馬場ゆほる	
2	ノラネコくんだんシリーズ	立橋ノリコ	
3	ココッコーさんシリーズ	かるくこうほう	
4	おぼたのバクシシリーズ	もとしいあずみ	
5	くまのアルといたせむぎシリーズ	廣瀬浩	

自分でえらんだ本

1			
2			
3			
4			
5			

【資料2】 実践Iで配布した2年生のブックリスト

多くの子どもたちに参加してもらえるよう動機づけとして、ブックリストの本を読んだ数、(低学年10冊、中学年8冊、高学年5冊)に応じて、図書委員会で作成した、しおりや折り紙、1冊多く借りることができるカードの中から1つをプレゼントした。感想を書いて提出した場合は、さらに、これら3つをプレゼントするようにした。

イ. 掲載した本の設置

子どもたちがブックリストの本を手に取りやすいよう、図書館入り口にブックリストに掲載した本を揃え「この本読んでね! ブックリストの本」コーナー【資料3】として別置した。



【資料3】 この本読んでね! ブックリストの本」コーナー

ウ. 図書の時間の活用

週1時間の図書の時間を利用し、ブックリストに掲載した本の中から、【資料4】の読み聞かせや本の紹介を行った。読み聞かせには、季節に合わせた本や、ブックリストに挙げられた本の中にも、容易に読める本もあることを知らせるため、絵が大きく、わかりやすい内容の絵本を選

び、興味を持ってもらえるようにした。幅広い分野の本を意識して、動物の種類や時間など、科学につながるような内容の本も選んだ。

少し長い物語への移行としては、子どもたちが共感できるような内容の本や、興味を持ってくれるであろうと思われる、不思議なことが起こる物語などを選び、続きを読みたくるように内容の途中までを話すような形で紹介した。3年生では紹介した本に興味を持った際に、多くの子どもたちが読めるよう、シリーズのある本を紹介した。

2年生

読み聞かせ

書名	著者名	出版社	出版年
あめがふるふる	田島征三	フルーベル館	2017
サイモンは、ねこである	ガリア・バーンスタイン 作 なかがわちひろ 訳	あすなろ書房	2017
ながーい5ふんみじかい5ふん	リズ・ガートン・スキャンロン オードリー・ヴァーニック作 オリヴィエ・タレック絵 木坂 涼 訳	光村教育図書	2019

本の紹介

書名	著者名	出版社	出版年
まほうのゆうびんぼすと	やまだともこ 作 いとうみき 絵	金の星社	2017
ちびっこ大せんしゅ	シド・ホフ ぶんとえ 光吉夏弥 訳	大日本図書	2010

3年生

読み聞かせ

書名	著者名	出版社	出版年
ルラルさんのにわ	いとうひろし	ポプラ社	2015

本の紹介

書名	著者名	出版社	出版年
ブンダバー	くぼしまりお 作 佐竹美保 絵	ポプラ社	2001
モンスター・ホテルでおめでとう	柏葉幸子 作 高島 純 絵	小峰書店	1997
そうだったのか！しゅんかん図鑑	伊地知国夫 写真	小学館	2018

【資料4】2・3年生に行った読み聞かせや本の紹介に用いた本

② 図書委員会による読書推進活動

ア. 図書委員会によるおすすめの本の紹介

図書委員が、各学年に興味を持ってもらえるような本を5冊ずつ選び「図書委員さんおすすめの本」としてブックリストに取り入れた。

「図書委員さんおすすめの本」の中から、各図書委員が1冊を選び、本のPOP（本の紹介カード）【資料5】を作成した。作成した本のPOPは本と一緒に展示し、「図書委員おすすめの本」コーナー【資料6】としてブックリストの本コーナー隣に設置した。



【資料5】図書委員が作成した本のPOP



【資料6】図書委員おすすめの本コーナー

イ. 取り組みに参加した子どもへのプレゼント作成、配布

図書委員会からプレゼントとして、しおりや折り紙でリボンやコップなどを作成した。ブックリストに参加した子どもたちには、しおり、折り紙、1冊多く借りられるカードの中から1つをプレゼントした。

【考察】

① 学校司書によるブックリストを活用した読書支援

2年生は参加者が多く、半数以上が司書の選書や図書委員おすすめの本を読んでいた。感想を書いた子どもも半数程度いた【資料7】。

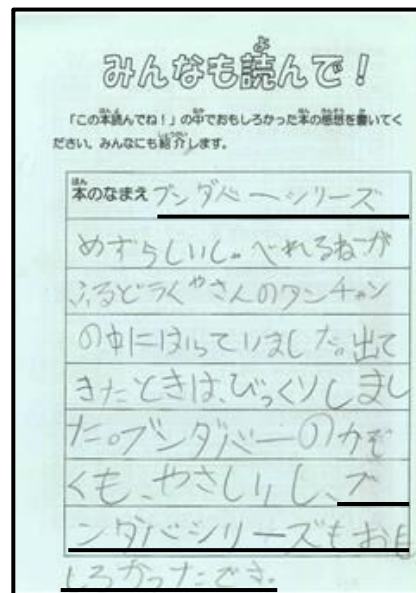
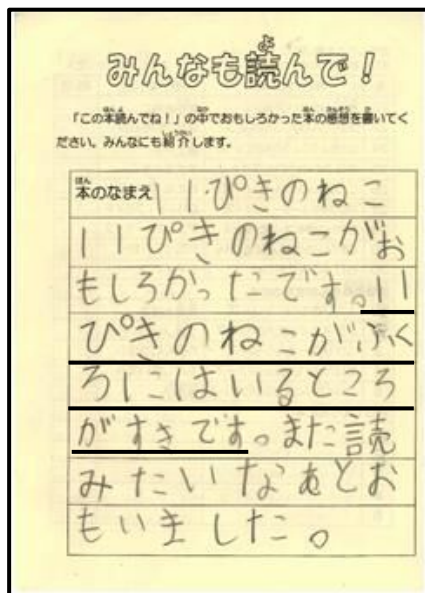
ブックリストの本を読んだ平均は7冊で、司書が選書した本から選んだ冊数は平均4冊であった。図書委員おすすめの本から選んだ冊数は平均2冊であった【資料8】。

	学年 人数	参加者	司書の選書を 読んだ人数	図書委員おすすめ の本を読んだ人数	感想記入
2年生	42	33	28	18	20
3年生	39	20	12	7	13

【資料7】ブックリスト参加人数とリスト活用人数

れた【資料11】。

3年生では、司書が本の紹介を行った本の感想を書いている子どもが7人いた。シリーズのある作品でもあることから、3年生の読書目標にある長編の読み物を最後まで読み通すことができていると感じられた【資料12】。



【資料11】2年生ブックリストの本からの感想

【資料12】3年生ブックリストの本からの感想

月ごとの分類別貸出統計【資料13】からみると、2年生も3年生も実践を行っていた6月は4月、5月に比べ9分類の文学（物語など）の貸し出しが増えている。これにより、ブックリストの活用により、各学年の読書指導計画にある、少し長い読み物や長編の読み物に触れる機会ができたことがうかがえる。また、貸し出し総数から見て、実践を行った6月の貸し出し数も4月、5月と比べ増えており、実践に興味を持って参加した様子が見える。

2年生	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	絵本	合計
4月	3	5	1	0	22	0	12	12	0	69	163	287
5月	7	7	1	0	26	2	5	16	1	56	139	260
6月	13	11	1	1	36	3	11	15	0	131	283	505

3年生	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	絵本	合計
4月	7	8	2	3	28	10	1	4	0	120	51	234
5月	4	8	3	4	37	11	4	8	1	187	39	306
6月	7	13	5	9	110	14	3	13	4	308	61	547

【資料13】月ごとの分類別貸し出し統計

3年生ではアンケートで本を読むことが好きか、学校図書館が好きか、本を紹介してもらいたいかという問いに、すべていいえと答えていた子どもが、図書館の時間に紹介した本を読み、更に

予約を入れて続編を読むなど興味を持ってくれた。また、1冊読み通せたことで読むことが楽しくなったという感想を言ってくる子どももいた。

実践後の夏休みの本の貸し出しでも、2年生、3年生ともにブックリストの本18冊の貸し出しがあり、約30%の子どもたちがブックリストの本に興味を持ったことがわかる。

これらは、ブックリストの活用により、子どもたちが自分たちに合った本、読んでみたいと思う本に出会い、読書の幅を広げることができたためであると考えられる。

しかし、参加しなかった子どもからは、リストに挙がっている本が面白くなさそうだったという意見があった。実践Iでは、読み物を意識したため、読書に苦手意識がある子どもや読み物に関心がない子どもに、ブックリストの本に興味を持たせることができなかった。また、本のタイトルなどを挙げただけでは、興味を持たせることが難しいと考えられる。

実践2では、ブックリスト取り組みの周知、幅広い分野の本を掲載し紹介すること、色々な本の内容が分かるよう、本の読み聞かせや本の紹介を多く行う必要があると思われる。

② 図書委員会による読書推進活動

図書委員おすすめの本を本のPOPと一緒に設置し、コーナー展示をしたことで、その中から興味を持って借りていく子どもも多かった【資料14】。

図書委員が作成したプレゼントが動機づけになり【資料15】、本のPOPによる絵や紹介文で本への興味を持たせることができた。また、来館した子どもに対して、図書委員や高学年の子どもがブックリストの本と一緒に探したり、直接本を手渡し、紹介したりすることで、貸し出しにつながったところもある。図書委員会による読書推進活動を通して、本と子どもたち、子どもたち同士をつなげることで読書への興味関心を高めることができたと考えられる。



【資料14】貸し出された図書委員おすすめの本



【資料15】プレゼントを渡す図書委員

実践後、図書委員会において、子どもたちからブックリストへの参加者を増やすためのアイデアとして、ブックリストの本を分かりやすくする工夫などの意見があがった。実践2ではこのような工夫を取り入れることとした。

【実践Ⅰの成果と課題】

(成果)

- 2年生、3年生ともに、ブックリストを活用した取り組みを行った6月は、4月、5月に比べ9分類の貸し出しが増え、各学年の読書目標である、少し長い読み物、長編の物語に出合う機会を作ることができた。
- ブックリストの取り組み期間中は、貸し出し総数が増えていること、ブックリストを見ながら子どもたちが本を探す様子がみられたこと、実践後も30%の子どもがブックリストの本に興味を持ったことから、多くの本の中から自分に合った本を探すきっかけを作ることができた。
- 図書委員会による本の紹介や、プレゼント作成、配布などの読書推進活動により、本と子ども、子ども同士をつなぎ、読書の興味関心を高めることができた。

(課題)

- ブックリストの取り組みに関して周知ができていないところがあり、仕組みが理解できるまでに時間がかかり、継続しての参加が少なくなってしまった。
- 読み物を意識して本を紹介したため、幅広い分野の本に興味を持たせることができず、ブックリストに興味を持たない子どもがいた。

(2) 実践Ⅱ

実践Ⅰから、学校司書によるブックリストを活用した読書支援を行うことで、学年の読書目標に合った本に出合う機会を作り、多くの本の中から自分に合った本を探すきっかけを作ることができた。また、図書委員会による読書推進活動を行うことで読書への興味関心を高めることができたと思われたが、2つの課題が残った。

実践Ⅱでは、この2つの課題を改善する取り組みを図った。ブックリストに関しては、幅広い分野の本に興味を持たせるため、各分類を意識し選書した。また、ブックリストの本に興味を持たない子どもがいたこと、取り組みの周知ができていないところがあったことから、ブックリストに掲載する本の数や選書について、実施期間などの改善を行った。

図書委員会による読書推進活動に関しては、子どもたちは日常で動画などをよく見ており、YouTuberに憧れている子どももいる。そこで、本の紹介をしているYouTuberをヒントに、映像による図書委員会からの本の紹介を行うことで、更に本への興味を持たせるようにした。

【実践2】

校内読書月間の期間

実施期間：11月1日（月）～12月3日（金）23日間

貸し出し冊数：1回につき2冊

期間中利用可能な日数：図書の時間 5日・中休み・昼休みなどの利用 18日

※ 中休み・昼休みの利用については、新型コロナウイルス感染症対策のため学年を決めての利用になっている。

① 学校司書によるブックリストを活用した読書支援

ア. ブックリストの作成、配布

実践2では、ブックリストの取り組みに参加しやすいよう、多くの本を読めたという達成感が感じられるよう、リストの冊数を50冊から30冊に減らし、司書が26冊選書した。実践Iの課題として、ブックリストの本に興味を持たない子どもがいたこと、幅広い分野の本に興味をもたせられなかったことから、9分類である文学（物語など）の本を減らし、各分類を意識して本を選書した。できるだけ司書が選書した本に興味を持ってもらえるよう、実践Iでは5冊としていた図書委員会からおすすめする本を、動画で紹介する本1冊とし、子どもたち自身が選んだ本5冊（子どもが興味を持って読んだ本を記入させる）も3冊とした。

実践Iでの面白さの記入を外し、幅広い分野の本に興味を持たせること、また、その本の場所を意識させるため、子どもたち自らが棚から本を探そうとすることができるよう、書名、著者名と分類記号、著者記号を載せ、ブックリストの裏には、簡単な本の探し方の説明を入れた【資料16】。

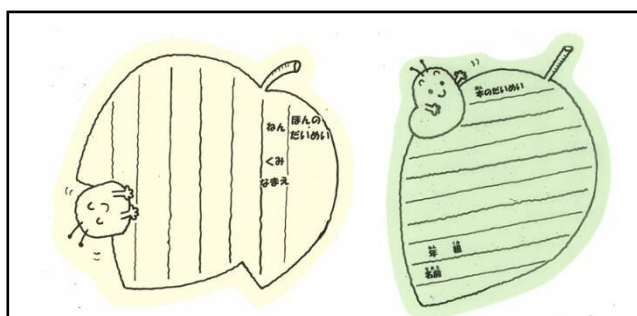
No.	本の題名	著いた人	本の場所
1	なぜだろう？ 身近な生きもの3年生	三浦 大輔 監修	04 ナ
2	世界えじてん	紙筒 葉生 監修	29 セ
3	日本のおぼかっわらひシリーズ	米澤 正夫	38 コ
4	手で食べる？	藤原 啓士	38 モ
5	ナゾときやエンズパイバル3年生	小松原 隆子	40 コ
6	なぜだろう？科学のお話		40 ナ
7	動物のちえ シリーズ	遠藤 裕彦 監修	481 ト
8	わたちのぞくせん	宮武 敏夫	486 ミ
9	アソビくらすむし	島田 たく	486 シ
10	パタポンピョウ天幕篇	和田浩一 監修	78 ハ
11	だいやけ 早口言葉・短文の本		80
12	目でみることばのずかん	おかべ たかし	81 オ
13	ことわざの本		80～81
14	パタポン	田中 和雄 編	911 ハ
15	車いしは空の色シリーズ	あまん さみこ	913 ア

【資料16】実践2で配布したブックリスト 3年生

通常の貸し出しでは2冊の貸し出しの内、1冊は文学（物語など）の本を借りるようになっていたが、ブックリストの本を多く読んでもらえるよう、取り組み期間は、ブックリストに掲載されている本は文学の本の代わりとなるようにした。

子どもたちの参加への動機づけとして、実践IIでは、5冊毎にプレゼントがもらえるようにし、すべての本を読んだ場合には、名前入りの特別カード（いつでも1冊多く借りられるカード）のプレゼントを行うようにした。

本の感想に関しては、「読書の木の葉」【資料17】という用紙に本の感想を書くようにした。



【資料17】読書の木の葉 1・2年用・3～6年用

さらに、ブックリストの PDF を Google Classroom にあげ、タブレットから見ることもできるようにした。タブレットの持ち帰りを利用して、家読の取り組みと連携するようにした。家庭でブックリストに興味を持ってもらうことで、更に子どもたちに興味を持たせることができると考えた。

イ. 掲載した本の設置

実践Ⅱでは、幅広い分野の本を知り、子どもたちが自ら本を探すことを意識して、ブックリストの本は自身で本棚から探すようにした。分類記号がわかりやすいよう本棚に大きく掲示した【資料18】。本の配置に関しては、図書の時間の中で分類や書架見出しなどについて説明を行った。



【資料18】側面に分類記号を大きく掲示した本棚

実践Ⅰ後、図書委員から出た「ブックリストの本を分かりやすくする工夫を行う」という意見から、ブックリストに掲載した本がわかりやすいように、掲載した本には、各学年で色分けし、学年の数字スタンプを付箋に押し、本に貼った【資料19】。

付箋を貼ることに関しては、昼休みや委員会活動の時間に司書と図書委員で行った。



【資料19】学年の付箋を貼ったブックリスト掲載図書

ウ. 図書の時間の活用

実践Ⅰの課題である、幅広い分野の本に興味を持たせること、ブックリストに興味を持たなかった子どもたちへも興味を持たせることができるよう、図書の時間を活用しての読み聞かせや本の紹介を多く行った【資料20】。

2年生では国語の単元である「ビーバーの大工仕事」や「お手紙」と関連するよう、4分類（自然科学）の動物に関する本やアーノルド・ローベルの本を選び、国語の学習と関連させることで興味を持たせるようにした。

3年生では、8分類（言語）の言葉に関する本、実践Ⅰに続き、長い読み物への移行を意識し

て、絵本から長い読み物へ続く本などを選んだ。

子どもたちは怖い話が好きなことから、3分類（社会科学）にある昔ばなしの本の中から、幽霊や妖怪が出てくる本の紹介をどちらの学年にも取り入れた。本の紹介や読み聞かせには書画カメラを活用し、本の紹介の際には、挿絵などが良く見えるようにした。

2年生

読み聞かせ

書名	著者名	出版社	出版年
わらしべ3ぼん	小澤俊夫、今西茂子 作 やまぐちみねやす 絵	くもん出版	2006
やまなしもぎ	平野直 再話 太田大八 絵	福音館書店	1998
れいぞうこのおくのおく	うえだしげこ 作・絵	教育画劇	2018
なくしたボタン 「ふたりはいつも」より	アーノルド・ローベル 作 三木卓 訳	文化出版局	1999

本の紹介

書名	著者名	出版社	出版年
ガタガタふるえるゆうれい話	木暮正夫 文 原ゆたか 絵	岩崎書店	2000
ぽっかぽかだいすきおさるさん	福田幸広 写真・文	ポプラ社	2002
キタキツネのあかちゃん	福田幸広 写真 結城モイラ 文	ポプラ社	2001
動物たちは、建築家！	ダニエル・ナサル 文 フリオ・アントニオ・プラスコ 絵 古草秀子 訳	河出書房新社	2018
モンスター一家のモン太くん	土屋富士夫 作・絵	徳間書店	2012
このはおかね、つかえます	茂市久美子 作 つちだ義晴 絵	佼成出版社	2003
ふたりはいっしょ	アーノルド・ローベル 作 三木卓 訳	文化出版局	1972
ふたりはともだち			1999
ふたりはきょうも			1980

3年生

読み聞かせ

書名	著者名	出版社	出版年
やまんばあかちゃん	富安陽子 作 大島妙子 絵	理論社	2011

本の紹介

書名	著者名	出版社	出版年
おとなもブルブルようかい話	木暮正夫 作 原ゆたか 絵	岩崎書店	2000
笑うのだれじゃだじゃれあそび	ながたみかこ 作 イケウチリリー 絵	汐文社	2018
目でみることばのずかん	おかべたかし 文 やまでたかし 写真	東京書籍	2016
ドングリ山のやまんばあさん	富安陽子 作 大島妙子 絵	理論社	2002

【資料20】2・3年生に行った読み聞かせや本の紹介に用いた本

② 図書委員会による読書推進活動

ア. 図書委員会によるおすすめの本の紹介

ブックリストの中に各学年に図書委員が選んだ本1冊【資料21】を取り入れ、本の内容に興味を持ってもらえるよう、各学年に向けて本の紹介動画を作成することとした。

学年	書名	著者名	出版社	出版年
1年生	うれしいさん かなしいさん	松岡京子 作	東京子ども図書館	2012
2年生	あめだま	ペク・ヒナ 作 長谷川義史 訳	ブロンズ新社	2018
3年生	としょかんねずみ	ダニエル・カーク作 わたなべてつた 訳	瑞雲舎	2012
4年生	ぬまがさワタリの ゆかいないきものマル秘図鑑	ぬまがさワタリ	西東社	2018
5年生	ラストで君は「まさか！」と言う 不思議な友だち	PHP研究所	PHP研究所	2020
6年生	捨て犬・未来、 天国へのメッセージ	今西乃子 作 浜田一男 写真	岩崎書店	2016

【資料21】図書委員会おすすめの本

図書委員がブックリストの中に取り入れた、各学年に選んだ本の紹介を動画で撮影し、給食時間に校内放送を行った。また、ブックリストと同様に Google Classroom から見ることもできるようにした。

動画に関しては、それぞれの図書委員に選んだ本の紹介文を書かせ、図書館教育担当教諭や司書と一緒にシナリオや構成を考えた。動画の撮影は、昼休みの利用者が少ない時間帯や委員会活動の時間を利用し、図書館教育担当教諭や司書で撮影を行った【資料22】。



【資料 2 2】 動画撮影の様子

撮影した動画は PowerPoint を利用し、スライドに動画を挿入し、紹介内容に合わせてイラストや吹き出しを入れ、アニメーションを付け編集した。

完成した動画は、低・中・高学年と 3 日に分けて給食時間に放送し、その後、情報・視聴覚教育担当教諭に Google Classroom にあげてもらい、各学年の動画をタブレットで見ることができるようにした。

イ. 取り組みに参加した子どもへのプレゼント作成、配布

実践 I 同様、取り組みに参加した子どもへは、図書委員が作成したしおりや折り紙、1 冊多く借りられるカードの中から 1 つをプレゼントとした。

その他に、実践 I の課題であった、取り組みへの周知に関しては、ブックリストの取り組みについて子どもたちが理解できるよう、10 月、11 月の図書だよりや図書の時間の中で取り組みについて説明した。

【考察】

① 学校司書によるブックリストを活用した読書支援

実践 II では、2 年生は参加者が増え、司書の選書を読んだ人数も実践 I に比べて増えていた【資料 2 3】。ブックリストの本を読んだ平均は 7 冊、司書が選書した本から読んだ数は平均 5 冊であり、実践 I と比べると変化はなかった【資料 2 4】。参加者と司書の選書を読んだ人数が同じであることから、多くの子どもたちが、司書が選書した本を読んでもらっていることが分かる。しかし、ブックリストの本を読んだ平均冊数、司書の選書から読んだ平均冊数に変化がないことから、1 度プレゼントをもらった子どもが、更にブックリストの本を読もうというような、継続しての参加につながらなかった。国語の単元に関連する本を紹介したことから、そのシリーズを読む子どもが多く、その他の分野の本へ興味が向かなくなってしまうと思われる。

3 年生は、参加者は約半数と実践 I とあまり変わらなかったが、司書が選書した本を読んだ人数は増えていた【資料 2 3】。ブックリストの本を読んだ平均数は 12 冊、司書が選書した本から読んだ冊数は平均 8 冊と、実践 I に比べどちらも増えていた【資料 2 4】。

	学年 人数	参加者		司書の選書を読んだ人数		図書委員おすすめの本を読んだ人数	
		実践Ⅰ	実践Ⅱ	実践Ⅰ	実践Ⅱ	実践Ⅰ	実践Ⅱ
2年生	42	33	37	28	37	18	8
3年生	40	20	24	12	20	7	8

【資料23】ブックリスト参加人数とリスト活用人数（実践Ⅰとの比較）

	ブックリストの本を読んだ数		司書の選書から読んだ数	
	実践Ⅰ	実践Ⅱ	実践Ⅰ	実践Ⅱ
2年生	7	7	4	5
3年生	8	12	3	8

【資料24】ブックリスト活用の平均冊数（実践Ⅰとの比較）

2年生は参加者が増えたことから、この取り組みが2回目の実施ということもあり、ブックリストの仕組みが理解でき、子どもたちが取り組みに興味を持って参加したと考えられる。

また、3年生では司書の選書から読んだ数が増えたことから、文学（物語など）の本だけでなく、リストの中に自然科学や言語などの幅広い分野の本を入れたこと、図書の時間を活用しての、読み聞かせや本の紹介を多く行ったことで、ブックリストが面白くないといていた子どもにも興味を持たせることができたと思われる。

図書の時間を活用し、昔ばなしやことわざ、だじゃれなど、様々な本があることに気付かせることができ、子どもたちが今まで手に取らなかった本を手取るようになった。担任の先生からも「これからも本の紹介などを行ってほしい」との要請があった。

また、国語の単元に合わせた本を入れていた事で、並行読書として活用できた面もあった。

リストを30冊にしたこと、5冊読むごとにプレゼントがもらえるとしたことで、スタンプを集める目標が近くなったことも、この取り組みへの参加を促すことにつながったと考えられる【資料25】。

この本 読んでね！				3年生				止	
No.	本の題名	著いた人	本の 巻数	No.	本の題名	著いた人	本の 巻数		
1	なぜだろう、身近な生き物3年生	吉田 大樹 監修	04ナ	16	ごきげんなすてご	いとうひろし	913 イ		
2	世界えじてん	読者 編集 監修	29セ	17	おならくらげ	ささき あり	913 リ		
3	日本のお話かわらじき シリーズ	永崎 正夫	38コ	18	ドンブリ山のやまんばあさん シリーズ	高安 純子	913 ト		
4	手で食べる？	藤枝 昌士	38モ	19	レッツがおつかい シリーズ	ひこ 恒幸	913 ヒ		
5	ナリとさライオンズクラブの3年生	小松原 繁子	40コ	20	さいごのさいごのなかなおり	三田村 信行	913 ミ		
6	なぜだろう？科学のお話		46ナ	21	ゆうすけ町の小さな英雄	藤野 久美子	913 モ		
7	動物のちえ シリーズ	成島 悦雄 監修	481 ト	22	学校はなふしぎ	斎藤 洋	913 カ		
8	むしたちのさくせん	船越 英夫	486 モ	23	しょうたとなつとう	田川ひろ子、ほか	913 シ		
9	アトくらすむし	鹿田 たく	486 シ	24	しあわせなかくらう	ホイテマ	913 シ		
10	バラランビックス大発見	和田浩一 監修	28ハ	25	としよかんぬずみ	ダニエル・カーク	913 ト		
11	だじゃれ・早口言葉・語文の本		80	26	ラン パン パン	マギー・ダフ	913 ラ		
12	目でみることばのずかん	おかべ たかし	81オ	27	花さき山、ほか (黒澤隆介さんが書いた本)	黒澤 隆介	913 カ		
13	ことわざの本		80～81		自分の好きな本				
14	バタポン	前村 純雄 編	913ハ	28	トッポロとくま				
15	車のいろは空の色シリーズ	あまん きみこ	913ア	29	モアアポポ				
				30	ちびおもちやうとんこいばなし				

【資料25】実践後の3年生のブックリスト

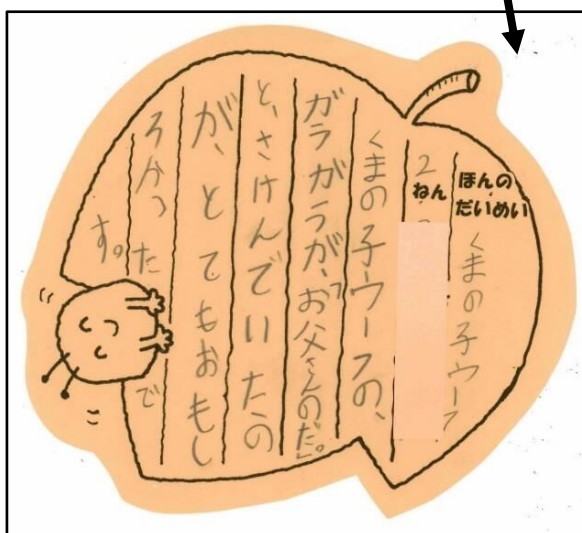
本の感想を書いた「読書の木の葉」【資料26】は図書館前の廊下に掲示した。自分の書いたものを探したり、他の子どもが書いたものを読んだり、多くの子どもたちが興味を持って見ていた。

ブックリストの本からの感想を書いた数は、全校で24人、2年生では4人、3年生では9人であり、3年生は他学年と比べて感想を書く子どもが多かった。

3年生では、9分類以外の本の感想が3枚あり、その他の分野の本にも接することができたと思われる【資料27】。



【資料26】「読書の木の葉」の掲示



【資料27】ブックリストからの本の感想 2年生・3年生

月ごとの分類別貸し出し統計【資料28】を見ると、実践I同様、貸し出し総数から見て、実践を行った11月の貸し出し数は9月、10月と比べ増えている。

2年生では、3分類（社会科学）の昔ばなしや4分類（自然科学）の動物の本、3年生では、3分類の昔ばなしや8分類（言語）のだじゃれ、ことわざなどの本の紹介を行ったことで、これらの分類の貸し出し数は増えている。これにより、ブックリストを活用した読書支援により、本に興味を持ち、幅広い分野の本に触れる機会ができたと思われる。

2年生	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	絵本	合計
9月	8	10	1	4	25	4	1	10	1	112	189	365
10月	8	13	1	0	28	1	2	14	3	114	199	383
11月	13	8	0	16	84	5	3	20	7	125	208	489

3年生	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	絵本	合計
9月	3	4	3	6	55	7	1	10	0	213	43	345
10月	3	3	8	6	78	11	1	14	0	194	41	359
11月	6	3	9	23	94	8	2	16	29	212	74	476

【資料28】月ごとの分類別貸し出し統計

また、自ら本を探すことができるよう、ブックリストの本を通常の棚から探すようにしたこと
で、子どもたちが分類記号を意識してみるようになり、どのような本がどの分類記号の所に置い
てあるのか分かるようになってきた。場所が分からない子どもに対して、棚の表示の見方などを
教え、一緒に探す子どももいた【資料29】。実践後も、本を探す際に、司書が分類記号を伝え
るとその棚に行き、子どもたち自身で探すようになってきた。



【資料29】
ブックリストを見ながら
自ら本棚で本を探す
子どもたちの様子

② 図書委員会による読書推進活動

子どもたちが興味のある、動画を利用して本の紹介を行ったことで、動画で紹介した本は対象
学年を超えて、それぞれの本に対し数人の予約が入るほど興味を持ってもらえた。

校内放送を行った事で低学年の子どもが親しみを感じ、図書委員に声をかけ、ブックリストの
本がある場所を尋ねたり、ブックリストでまだ借りてない本について相談したり、それに応じて
図書委員が本棚に案内したりと、利用する子どもと図書委員がコミュニケーションを取っていた。

実践Ⅰの課題を受け、実践Ⅱではブックリストを改善し、図書の時間を活用して、読み聞かせ
や本の紹介を多く行った事で、今まで子どもたちが手に取らなかった分野の本に興味を持たせる
ことができた。実践Ⅰではリストの本が面白くなかったと参加しなかった子どもが、実践Ⅱでは
積極的に参加し平均以上にリストの本を借りていた。実践Ⅰ同様、もっと続けたかったという声
もあり、実践後も取り組みと関係なく読んでみたいと興味を持ち、ブックリストの本を借りてい
く子どももあった。

これにより、2年生、3年生の読書目標に応じた本に出合わせ、幅広い分野の本を知る機会を
作ることができたと考えられる。

しかし、実践Ⅰ、Ⅱを通して、2年生はブックリストに掲載されている本を読んだ平均冊数に変化がなく、3年生は参加数にあまり変化がなかった。

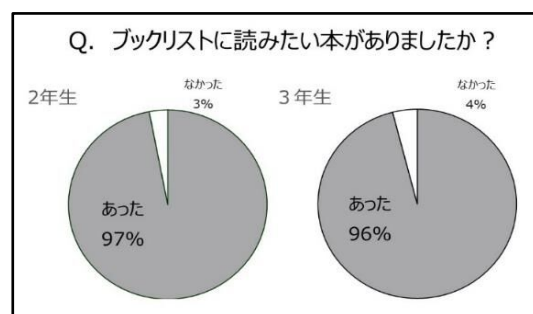
このことから、ブックリストの本を継続して読むよう興味を持たせる読書支援や動機づけを行うこと、読書へ関心がない子どもや、自らが本を選ぶことができている子どもたちに対して、興味を持たせるような選書が必要であると感じた。

図書委員会による読書推進に関しては、動画による本の紹介を行った事で、図書委員が身近に感じられるようになり、子ども同士の交流が増えた。動画で紹介した本も、多くの子どもが興味を持った。これにより、本と子ども、子ども同士をつなげる読書推進活動を行うことで読書への興味関心を高めることができたと考えられる。

7 全体考察

実践後、子どもたちにアンケートを行った。

ブックリストの取り組みに参加者した子どもたちは「ブックリストの中に、おもしろい本がありましたか？」という問いに関して、2年生で97%、3年生で96%があったと答えている【資料30】。

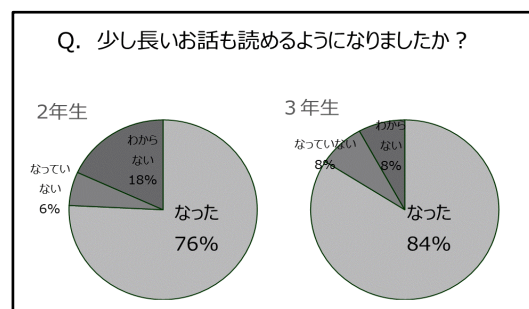


【資料30】アンケート結果1

「ブックリストがまたあったら、参加したいですか？」という問いに関しては、2年生、3年生ともに、全員がまた参加したいと答えている。これらのアンケート結果から、子どもたちがブックリストの本に興味を持ったこと、読書に関心を持ち、楽しんで参加した様子がうかがえる。

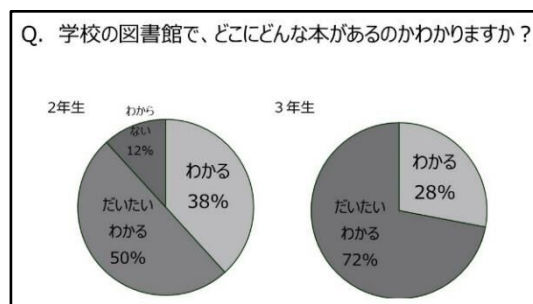
しかし、ブックリストに参加したが面白い本がなかったと答えた子どもが、各学年1名いた。これらの子どもは自身の好みに合わせた長い読み物を読むことができおり、ブックリストの本に興味を持てなかったようであった。

「少し長いお話も読めるようになりましたか？」という問いに関しては、2年生で76%、3年生で84%がなったと答えており、子どもたち自身が、少し長い読み物、長編の読み物を読めるようになったと実感しているようである【資料31】。



【資料31】アンケート結果2

「学校の図書館で、どこにどんな本があるのかわかりますか？」という問いに関しては、わかるが、2年生で38%、3年生は28%、だいたいわかるが、2年生で50%、3年生で72%であった【資料32】。



【資料32】アンケート結果3

子どもたちが分類などを意識し、自ら本を探したことにより、どのような本がどこにあるのか、ある程度わかるようになったと考えられる。

これらのアンケート結果から、ブックリストを活用した読書支援により、各学年の読書目標に応じた本に出合わせることで、少し長い読み物、長編の読み物を読むことができるようになり、読書の幅を広げ、子どもたちが読める本、読みたい本を、子どもたち自身で探すきっかけを作ることができたと考えられる。また、子どもたち自らが分類を意識して本を探すことで、幅広い分野の本に出合う機会を作ることができたと考えられる。

ブックリストに関しては、実践Ⅱの改善から、掲載する本については学年の実態に応じた読み物のほか、各分類から幅広い分野の本を選ぶこと、リストに挙げる冊数については、数多くあげるのではなく、子どもたち自身が多くの本を読んだと感じられる冊数にすることが必要だと感じた。分類を意識し、幅広い分野の本をブックリストに取り入れ、分類記号や著者記号を掲載したことで、子どもたちが分類記号を見て本を探すようになり、自ら本を探すきっかけを作ることができたとと思われる。取り組みの周知を図り、実施期間を長くしたことも参加者を増やすことにつながった。

しかし、ブックリストを配布するだけでは本に興味を持たせることは難しく、読み聞かせや本の紹介などの読書支援を多く行ったこと、動機づけとして読んだ本の数に応じてのプレゼントを行ったことにより、参加者やブックリストの本を読む子どもが増えたことから、ブックリストを活用した読書支援、取り組みの工夫が必要であると感じた。

また、図書委員会による本の紹介などの読書推進活動を行うことで、子ども同士の交流が増え、本と子ども、子ども同士をつなぎ、読書への興味関心を高めることができたと感じた。

これにより、読書の幅を広げ、子どもたち自らが読みたい本を探し、読書への興味関心を高めるために、学年の読書目標に応じたブックリストを活用した読書支援、さらに、図書委員会による読書推進活動を行うことが有効であったと考えられる。

7 成果と課題

(1) 成果

- ブックリストを活用し、読み聞かせや本の紹介などの読書支援を多く行うことで、子どもたちが学年の読書目標に合った本に出会い、幅広い分野の本に興味を持ち、本の幅を広げることができた。
- ブックリストに分類を意識した本を取り入れることで、どこにどのような本があり、どう探せばよいのか、子どもたち自らが本を探すきっかけを作ることができた。
- 委員会活動と連携した子ども同士の読書推進活動を行うことで、子ども同士の交流が増え、本に興味関心を持たせることができた。

(2) 課題

- 子どもたちが、ブックリストの本に興味を持ち継続して読むよう、読書支援の工夫や興味を持たせる動機づけが必要である。
- 読書に関心がない子どもや、自ら本を選ぶことができている子どもへも、興味を持たせるような選書が必要である。

<引用文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則』，2017
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則』，2017
- ・文部科学省 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(概要)，2018
- ・飯塚市 飯塚市子ども読書活動推進計画(改訂版)，2017

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』，2017
- ・「シリーズ学校図書館学」編集委員会編，『読書と豊かな人間性 シリーズ学校図書館第4巻』
全国学校図書館協議会，2013
- ・福岡淳子，『司書と先生がつくる学校図書館』，玉川大学出版，2015